

報告第 11 号

株式会社グリーンウインズさとやまの経営状況について

株式会社グリーンウインズさとやまが、第 33 期（自令和 7 年 4 月 1 日～至令和 8 年 3 月 31 日）の決算及び第 34 期（自令和 8 年 4 月 1 日～至令和 9 年 3 月 31 日）の事業計画を定めたので、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 243 条の 3 第 2 項の規定により、次のとおり報告する。

令和 8 年 9 月 2 日

庄原市長 八 谷 恭 介

第 33 期（自令和 7 年 4 月 1 日～至令和 8 年 3 月 31 日）
決算関係書類（別紙）

第 34 期（自令和 8 年 4 月 1 日～至令和 9 年 3 月 31 日）
事業計画関係書類（別紙）

経営状況等概要シート

1 作成年月日及び作成担当部署

作成年月日 令和8年6月30日
作成担当部署 広島県庄原市 産業振興部 観光振興課

2 第三セクター名等

第三セクター名 株式会社グリーンウインズさとやま
第三セクター所在地 〒727-0011 庄原市東本町1丁目8-17
設立年月日 平成6年3月10日

3 資本金(出資金総額) 100,000千円

4 市の出資額及び出資割合 60,000千円 (庄原市の出資割合 60.0 %)

5 事業内容

・国営備北丘陵公園の管理受託等

6 財務状況

貸借対照表から	項目	金額(千円)		
		令和5年度	令和6年度	令和7年度
	総資産	256,574	238,342	253,291
	(うち流動資産)	(189,893)	(171,290)	(186,835)
	(うち固定資産)	(66,680)	(67,052)	(66,456)
	総負債	54,225	40,365	48,705
	(うち流動負債)	(46,357)	(35,381)	(41,133)
	(うち固定負債)	(7,868)	(4,984)	(7,572)
	総純資産	202,348	197,977	204,586
	(うち利益剰余金)	(102,348)	(97,977)	(104,586)

損益計算書から	項目	金額(千円)		
		令和5年度	令和6年度	令和7年度
	総収入(=売上高+営業外収益+特別利益)	544,892	550,429	558,711
	(うち地方公共団体からの補助金・委託金)	(16,627)	(17,277)	(21,302)
	経常損益	▲2,091	▲10,403	5,483
	当期損益	▲3,837	▲4,372	6,608
	減価償却前当期損益	2,601	2,715	12,729

7 役員構成 ※令和8年3月31日時点

役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名
取締役会長	八谷 恭介	取締役	藤原 信孝	監査役	青木 照和
代表取締役社長	奥井 智裕	取締役	西中 晃		
専務取締役	上野 和馬	取締役	本平 正宏		
取締役	児島 直子	取締役	石田 悦二		
取締役	木村 洋	取締役	小林 明宗		

8 役職員の状況 ※令和8年3月31日時点

役員数	人件費(千円)	正職員数	人件費(千円)	その他に係る人件費(千円)
11	21,707	52	184,969	21,721

※直近の決算の数値

9 第三セクターへの関与の状況

(1) 公的支援等(フロー)

項目	金額(千円)			備考(目的、内容、算出根拠等)
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
① 補助金(助成金)	28,350	350	2,642	特定求職者雇用開発助成金300千円 庄原市宿泊事業者臨時経営支援金2,342千円
② 利子補給金				
③ 税の減免額				
④ その他				
小計	28,350	350	2,642	
⑤ 損失補償契約に伴う金利軽減額				
⑥ 出資金、低利貸付等に伴う機会費用				
小計	0	0	0	
合計	28,350	350	2,642	
(参考)委託料	15,777	16,927	18,660	庄原市庄原交流拠点施設(食彩館しょうばら ゆめくら)指定管理料

(2) 公的支援等(ストック)

項目	金額(千円)			備考(目的、内容、算出根拠等)
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
① 損失補償契約に係る債務残高 (将来負担額)				
	(将来負担算入率)			
② 貸付金残高				
③ 出資金				
合計	0	0	0	

10 その他の特記事項

営 業 報 告 書

(第 33 期)

自 令和 7年 4月 1日
至 令和 8年 3月 31日

株式会社グリーンウインズさとやま

1. はじめに

当社は、令和6年1月「R5-9 国営備北丘陵公園運営維持管理業務」を受託し、同年2月より4年間にわたる運営管理業務を開始いたしました。

実質的に2年目となる令和7年度の入園者は約44万1千人で、前年比約3万7千人の増となりました。

売上高は549,089千円で前年比101.0%、6,153千円の増収となりました。税引前利益は6,811千円の黒字となり、前年度の4,168千円の赤字から10,979千円改善いたしました。

当社の最重要課題である公園コンセッション事業につきましては、令和7年12月に当公園特定運営事業実施方針及び要求水準書（案）が公表され、官民対話を経て、令和8年3月にコンセッション実施が決定いたしました。

令和8年7月に予定されている第一次審査受付を皮切りとした公募に対して、共同体（コンソーシアム）の代表として応募する方針を定め、構成員メンバーの調整や事業内容の具体化に向けた準備を進めて参りました。

2. 公園運営維持管理業務について

公園管理部門では、本業務全体のマネジメント及び企画立案業務、利用者サービス、収益施設の管理運営を担い、包括的な品質確保と企画書に掲げた内容の完全実施を目標として業務を遂行しました。

入園者数については、4月から7月にかけては好調に推移したものの、8月～9月は猛暑による外出自粛傾向が強まり、前年を下回りました。10月以降は北エリアや駐車場を活用した持込イベントの誘致・開催や、例年より1週間前倒しで実施したイルミネーション事業等の効果により回復傾向となりました。しかし、年明けの大雪寒波により再び減少し、2月～3月の早春イベントで一定の回復を見せたものの、目標入園者数45万6千人には届かず、年間入園者数は44万1千人となりました。なお、前年比では3万7千人の増加となり、一定の成果を上げることができました。

地域連携の取組としては、県立広島大学庄原キャンパスサテライトラボにおける地域連携セミナーの定期開催や、年間を通じた庄原さとやま留学生の受入れ実施など、公園を新たな地域交流・学習の場として活用していただく機会の拡大につながりました。

公園運営維持管理業務における売上高は、退職に伴う人件費減額の影響もあり256,776千円、前年比99.0%、1,295千円減となりました。

3. 収益事業について

飲食売上は公園入園者増加及び物価高騰による販売価格改定の影響により56,778千円、前年比103.0%、1,663千円増となりました。

一方、物販売上は客単価が85.7円と前年比88.4%、11.2円減に落ち込んだことと、ラ・フォーレ庄原の休館による納品減が影響し、37,822千円、前年比97.0%、1,306千円減となりました。

収益部門で大きな割合を占める臨時売店については、イルミ期間中が最大の収益機会となります。令和7年度は1月に降雪の影響で入園者が大幅に減少したものの、11月の入園者が過去最高を記録したこともあり期間入園者が176,763人、前年比112.3%、19,383人増と賑わいました。その結果、売上は62,758千円、前年比111.0%、6,250千円増となりました。

収益施設部門では、駐車場が 13,460 千円、前年比 105.4%、686 千円増、備北オートビレッジが 16,229 千円、前年比 96.5%、585 千円減、レンタサイクルが 4,039 千円、前年比 111.4%、415 千円増となりました。

グランピング施設「湖畔ステイズ庄原」は、稼働率は 55.5%で、前年比 2.1 ポイント増となっておりますが、喫食率が低調で、軽食きゅうくんとグランピングの合計売上は 19,035 千円、前年比 91.9%、1,673 千円減でした。

自主事業では、9 月に実施したドローンと花火のイベントが 2,211 千円、庄原市及び J A ひろしまとの共催イベント「みのりの祭典」が 3,587 千円、イルミネーション期間の「花の広場イベント」が 9,587 千円となりました。

4. 庄原交流拠点施設の指定管理について

庄原市庄原交流拠点施設「食彩館ゆめさくら」の指定管理者として、5 か年にわたる指定管理契約の最終年として施設の運営管理を行いました。

令和 7 年度は、「そば処とんぼ」の撤退を受けて、きくり合同会社との共同により「さくら食堂」を開業し年間を通して営業いたしました。

指定管理業務の売上高は、16,964 千円、前年比 100.2%、37 千円増となりました。

5. 経営管理関係

人事労務部門では、令和 7 年度の退職者のうち 1 名が入社 3 年以内の離職となり、令和 6 年度に続き「早期離職ゼロ」の目標を達成できませんでした。

採用活動では応募数が伸び悩み、人員不足が慢性化したことで、コンセッション事業を見据えた人員配置や異動計画の推進が困難な状況が続いています。

デジタル化による業務効率化や情報共有の改善では一定の成果が見られましたが、収支改善にはまだ十分に結びついておりません。

面談制度は導入から 3 年目となり、内容や評価の精度が向上しました。社員が自身の目標を意識しながら業務に取り組む姿勢が定着しつつあり、部門別の損益改善で効果が表れてきています。

3. 株式の状況

①株式の数

株 式 発 行 年 月 日	株 式 数	株主数	備 考
H 6. 3. 10	1, 400	7	
H16. 8. 31	△400		減資
H17. 3. 31		△1	庄原市と総領町の合併による
合 計	1, 000	6	

②発行済株式の種類

額面株式 1 株 10万円

③株主の総数

庄原市	600株	6,000万円
ひろしま農業協同組合	185株	1,850万円
広島県酪農業協同組合	80株	800万円
庄原商工会議所	45株	450万円
備北森林組合	45株	450万円
広島みどり信用金庫	45株	450万円
合 計	1,000株	10,000万円

4. 会議の状況

株主総会

R	7.	6.	23	第32回定時株主総会
R	7.	8.	27	臨時株主総会

取締役会

R	7.	6.	23	・経営状況に関する件 ・第32期営業報告及び決算報告に関する件 ・利益剰余金処分（案）の承認及び株主配当に関する件 ・第33期事業計画（案）及び事業収支計画（案）に関する件 ・取締役選任に関する件 ・監査役選任に関する件
R	7.	8.	27	・取締役選任に関する件 ・経営状況に関する件 ・監査意見 ・「備北コスモスピクニック」に関する件 ・コンセッション導入に関する件
R	7.	12.	14	・経営状況に関する件 ・監査意見 ・備北イルミに関する件 ・コンセッション導入に関する件
R	8.	2.	25	・経営状況に関する件 ・決算予測に関する件 ・監査意見 ・株主配当（案）に関する件 ・令和8年度経営基本方針（案）に関する件 ・コンセッション導入に関する件 ・「備北花ピクニック」に関する件

監査

R	7.	5.	20	決算監査
---	----	----	----	------

5. 社員の状況(令和8年3月31日現在)

社員数・嘱託員数	52名
経営管理部	3名
営業部	16名
公園管理部	28名
業務部	5名
※出向受入れ	1名
※常用パート	8名

6. 営業年度の取締役及び監査役の氏名(令和8年3月31日現在)

取締役会長	八谷 恭介
代表取締役社長	奥井 智裕
専務取締役	上野 和馬
取締役	児島 直子
取締役	本平 正宏
取締役	西中 晃
取締役	小林 明宗
取締役	藤原 信孝
取締役	木村 洋
取締役	石田 悦二
監査役	青木 照和

令和8年6月11日

株式会社グリーンウインズさとやま
代表取締役社長 奥井 智裕

決 算 報 告 書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日

株式会社 グリーンウインズさとやま

広島県庄原市東本町一丁目 8-17

貸借対照表

株式会社 グリーンウインズさとやま

令和 8年 3月31日 現在

単位：円

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流 動 資 産】	【 186,835,044】	【流 動 負 債】	【 41,133,068】
現 金 及 び 預 金	102,129,806	買 掛 金	4,206,582
売 掛 金	48,393,683	未 払 金	24,129,510
商 品	9,128,154	未 払 法 人 税 等	202,500
食 材	2,639,412	預 り 金	6,176,776
立 替 金	893,527	仮 受 金	70,000
前 払 費 用	1,854,325	未 払 消 費 税	6,347,700
未 収 入 金	5,452,637	【固 定 負 債】	【 7,571,707】
預 け 金	17,020	退 職 給 与 引 当 金	3,751,707
共 同 体 仮 払 金	16,649,480	役 員 退 職 慰 労 引 当 金	3,820,000
貸 倒 引 当 金	△323,000	負 債 合 計	48,704,775
【固 定 資 産】	【 66,455,592】		
(有 形 固 定 資 産)	(29,440,912)		
建 物	3	純 資 産 の 部	
建 物 附 属 設 備	7,602,374	【株 主 資 本】	【 204,585,861】
構 築 物	7,325,410	資 本 金	100,000,000
機 械 装 置	45,445	(利 益 剰 余 金)	(104,585,861)
車 両 運 搬 具	167,289	利 益 準 備 金	2,190,000
備 品	14,300,391	そ の 他 利 益 剰 余 金	102,395,861
(無 形 固 定 資 産)	(339,340)	別 途 積 立 金	100,000,000
電 話 加 入 権	58,000	当 期 未 処 分 剰 余 金	2,395,861
ソ フ ト ウ ェ ア	281,340		
(投 資 そ の 他 の 資 産)	(36,675,340)		
出 資 金	14,493,900	純 資 産 合 計	204,585,861
前 払 保 険 料	16,053,640		
保 険 積 立 金	6,127,800	負 債 ・ 純 資 産 合 計	253,290,636
資 産 合 計	253,290,636		

損益計算書

株式会社 グリーンウインズさとやま

自 令和 7年 4月 1日

至 令和 8年 3月31日

単位：円

科 目	金 額	
【売 上 高】		
物 販 売 上 高	37,821,648	
飲 食 売 上 高	56,777,966	
業 務 売 上 高	9,960,096	
そ の 他 売 上 高	77,201,355	
業 務 受 託 収 益	256,776,589	
駐 車 場 売 上	13,449,283	
レンタサイクル売上	3,653,903	
オートビレッジ売上	16,178,543	
ロードトレイン売上	8,750,481	
出 向 派 遣 売 上	40,583,089	
指 定 管 理 売 上	16,963,967	
フィッシング売上	28,405	
グランピング売上	8,072,119	
雑 売 上	2,872,280	549,089,724
【売 上 原 価】		
期 首 棚 卸 高	9,956,110	
物 販 仕 入 高	27,201,148	
食 材 仕 入 高	21,568,018	
業 務 仕 入 高	3,475,492	
そ の 他 仕 入 高	28,608,836	
オートビレッジ仕入	570,549	
＊ ＊ 合 計 ＊ ＊	91,380,153	
期 末 棚 卸 高	△11,767,566	79,612,587
売上総利益金額		469,477,137
営業損失金額		472,287,263
【販売費及び一般管理費】		△2,810,126
【営 業 外 収 益】		
受 取 利 息	241,008	
受 取 配 当 金	400	
雑 収 入	8,052,867	8,294,275
【営 業 外 費 用】		
支 払 利 息 割 引 料		354
経常利益金額		5,483,795
【特 別 利 益】		
固 定 資 産 売 却 益	136,363	
貸倒引当金戻入益	173,000	
退職給与引当金戻入益	1,018,041	1,327,404
【特 別 損 失】		
固 定 資 産 除 却 損		2
税引前当期純利益金額		6,811,197
法人税、住民税及び事業税		202,500
当期純利益金額		6,608,697

販売費及び一般管理費

株式会社 グリーンウインズさとやま

自 令和 7年 4月 1日

至 令和 8年 3月31日

単位：円

科 目				金 額
役員報酬				21,707,078
給与				146,424,413
給料				3,993,653
雑費				34,551,228
賞与				21,721,005
退職金				138,305
法定福利				29,046,925
福利厚生				2,299,931
退職給与				1,705,837
外注				32,981,865
旅費				690,190
通交				2,017,605
減価償却				738,324
賃借料				6,120,876
保険料				998,740
修繕費				6,705,655
水道光熱費				1,435,230
燃費				14,622,466
消耗品費				2,011,738
租税公課				5,090,547
荷造運賃				704,976
事務用品				57,293
広告宣伝				306,312
支払手数料				1,634,026
諸会費				5,644,548
新聞図書				587,672
貸倒引当金				59,181
特退共保				323,000
教育訓練				9,130,515
施設管理				57,919
会議				249,642
車両				107,086
リース				1,911,648
支払報酬				571,861
寄付金				332,828
地代家賃				108,000
保守料				7,898,539
印刷製本				1,191,422
役員退職慰労金				365,040
運営維持業務費				1,900,000
雑費				101,642,300
				2,501,844
合 計				472,287,263

株主資本等変動計算書

株式会社 グリーンウインズさとやま

自 令和 7年 4月 1日

至 令和 8年 3月31日

単位：円

	株主資本						純資産合計
	資本金	利益準備金	利益剰余金			株主資本合計	
			その他利益剰余金		利益剰余金合計		
			別途積立金	当期末処分剰余金			
当期首残高	100,000,000	2,190,000	100,000,000	△4,212,836	97,977,164	197,977,164	197,977,164
当期変動額							
当期純利益				6,608,697	6,608,697	6,608,697	6,608,697
当期変動額合計	-	-	-	6,608,697	6,608,697	6,608,697	6,608,697
当期末残高	100,000,000	2,190,000	100,000,000	2,395,861	104,585,861	204,585,861	204,585,861

個別注記表

株式会社 グリーンウインズさとやま

自 令和 7年 4月 1日

至 令和 8年 3月31日

この計算書類は、中小企業の会計に関する指針によって作成しています。

重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品は最終仕入原価法

固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 法人税法の規定による定額法、ただし、機械及び装置は定率法

無形固定資産 法人税法の規定による定額法

引当金の計上基準

貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権について法人税法の規定による法定繰入率により計上するほか、個々の債権の回収可能性を勘案して計上しています。

退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、退職金規程に基づく期末要支給額により計上しています。

その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

貸借対照表等に関する注記

減損損失累計額に関する事項

減価償却累計額の金額

減価償却累計額 68,559,874円

株主資本等変動計算書に関する注記

発行済み株式の数

前期末株式数（発行済普通株式） 1,000株

当期増加株式数（発行済普通株式）

当期減少株式数（発行済普通株式）

当期末株式数（発行済普通株式） 1,000株

一株当たり情報に関する注記

一株当たりの情報

一株当たり純資産額 204,585円86銭

一株当たり当期純利益 6,608円69銭

事業計画 ~~(案)~~

(第 34 期)

自 令和 8年 4月 1日
至 令和 9年 3月 31日

株式会社グリーンウインズさとやま

令和8年度 経営基本方針（案）

1 はじめに

令和8年度は、「令和5-9 国営公園運営維持管理業務」の3年目となります。

観光需要は国内外ともに回復し、訪日客は過去最高を更新しています。国内旅行も物価高の影響がある中で一定の需要が維持されています。

しかし、当地域においてインバウンド効果はほとんど見られず、令和7年度の公園の入園者数は、前年度を上回ってはいるものの依然低迷から脱していない状況です。

引き続き、入園者の確保と経営改善に取り組むとともに、本年は、当社の最重要課題である「国営備北丘陵公園特定運営事業（コンセッション）」の公募が実施されることから、その対応に全力を挙げて取り組んでまいります。

■ コンセッションについて

国・地方ともに、高度経済成長期に整備した社会資本の老朽化が大きな課題となっています。本公園も開園から30年が経過し、施設の老朽化が急速に進行し、安全性の確保や魅力向上のための更新修繕が喫緊の課題となっています。

このような状況を受けて、一昨年からコンセッションの導入可能性調査が進められてきました。本年3月には、備北丘陵公園コンセッションが特定事業に選定され、今年度公募が実施されることが正式に決定いたしました。

■ 当社の対応方針

当社では運営権取得を目指し、以下を重点項目として対応を進めてまいります。

- ・ 新たな共同体（コンソーシアム）の形成
- ・ 公園運営事業の遂行を目的とする会社（SPC）の設立
- ・ 老朽施設等の更新修繕計画（投資計画）の策定
- ・ 利用サービス事業収支計画の策定
- ・ 地域間や多様な主体との連携強化の具体化

2 公園運営維持管理業務について

これまでの1、2年目において入園者数目標を達成できなかった要因を分析し、その課題を踏まえながら、堅実な入園者数の増加と公園の魅力向上を実現してまいります。

今年度は、「花の公園」としての運営の徹底と、「ひばの里活性化計画」の着実な実行を二本柱に、年間入園者数45万人の確保を目標として取り組むとともに、次期公園運営を見据えて、スタッフの意識改革を推進いたします。

■ 第一に、「花の公園」としての魅力向上です。昨年は育成不良の改善に重点的に取り組み、その結果、育成状況は改善傾向にあります。

また、ペレニアルガーデンやバラ園の魅力も着実に高まっており、基盤は整いつつあります。

一方で、花を公園の主軸コンテンツとして打ち出す運営や広報が十分とは言えず、その魅力を十分に発信できていない現状があります。

今年度は「しっかり咲かせた花を、しっかり届ける」ことを念頭に、公園スタッフ全員が、花の魅力を伝える担い手となり発信の強化に努めてまいります。

■ 第二に、本公園の象徴的エリアであるひばの里において、令和6年に策定した「ひばの里活性化計画」に基づいて、期間限定飲食メニューの提供による閑散期対策や、既存の景観に彩りを添える里山ガーデンの創出を行うなど、入園者が気軽に立ち寄り、滞在したくなる魅力づくりの取組みを進め、里山景観の中で人々の営みが息づく空間へと発展させてまいります。

■ 第三に、今後予定されるコンセプションを見据えた組織体制の強化です。
従来の維持管理中心の発想にとどまらず、「稼ぐ公園」への転換を意識し、必要な考え方や行動指針を全スタッフで共有します。

併せて、スタッフ一人ひとりが主体的に考え、行動できる環境づくりを進め、次期運営体制に対応できる組織基盤を構築してまいります。

3 収益事業について

今年度は、店舗等のリニューアルに向けた計画づくりと、収益基盤を強化する重要な年と位置づけます。

コンセプション事業では、今後20年間における施設の更新修繕計画と収益事業収支計画の策定が求められています。

これらの策定にあたって、「将来への挑戦」と「確実な収益確保」を二本柱に、持続可能な営業サービスの実現に向けて計画づくりに取り組むとともに、その一部は前倒しで実施することにより今年度の収益確保に努めてまいります。

■ 飲食・物販部門

飲食・物販施設においては、リニューアルを見据えて、「中の広場」のフードコート化を進めてまいります。

B B Qハウスは、直営に加えて地域事業者が期間限定で出店できる地域共創型飲食拠点へ転換し、柔軟な営業モデルの構築により、賑わい創出と収益機会の拡大を図ります。併せて、中の茶屋、ひばの里、売店ランバスを含む各店舗のメニュー特化と役割の明確化を進め、利用者の選択肢の充実と回遊促進につなげます。

また、販売メニューの見直しと合わせて、原価管理の徹底や仕込み工程・盛り付け量（ポーション）の標準化、廃棄ロスの多いメニューの改善・廃止などの検討を行ってまいります。

■ 宿泊部門

国営公園ならではの滞在価値と、施設の特性に応じた運営を基本に、宿泊2施設の役割を明確化し、それぞれの強みを最大化します。

湖畔ステイズは、体験価値重視の施設として、季節イベントや園内アクティビティと連動した体験型宿泊プランの造成により、客単価の維持向上と平日稼働率の改善を進めます。

オートビレッジは、幅広い客層の集客を担う施設として、連泊・グループ利用を見据えたリーズナブルな料金設定を基本としますが、新たなターゲット層の開拓や集客につながる施設の新設を検討いたします。

また、株式会社モンベルとの連携により、アクティビティの充実やオリジナル商品の開発販売を推進することにより、公園の滞在価値向上と収益機会の拡大につなげてまいります。

■ 園外事業部門

園内事業の売上は、入園者数に大きく左右されることから、収益の拡大と安定化を図るため、イベント出店等の園外業務にも積極的に取り組み、収益基盤の強化につなげます。

4 庄原交流拠点施設の指定管理について

今年度は、新たな指定管理契約の初年度として、これまで培ってきた運営ノウハウを基盤として、令和13年3月31日までの5年間、施設の管理業務を継続して担うとともに、地域活性化への取り組みを強化してまいります。

市では観光消費額の拡大を目指し、隣接する宿泊施設「桜花の郷 ラ・フォーレ庄原」を含むエリア一帯の魅力と滞在価値を高める整備事業を計画されています。この事業を見据えて、今後の5年間で次の重点方針により業務を推進してまいります。

■ 情報発信拠点としての機能強化

交流拠点施設を市の玄関口の一つとして位置づけ、備北丘陵公園のほか、他の観光施設、特産品の魅力を一体的に紹介するなど、インフォメーション機能を強化します。

館内掲示のほか、デジタル媒体や常駐スタッフによる案内を組み合わせることで来訪者の回遊性向上につなげます。

■ 交流拠点施設の賑わい創出と消費の拡大

施設自体の賑わいづくりと消費額拡大も重視し、朝どり市をはじめとする施設出店者へのフォローアップを強化します。

道の駅たかのをはじめ市内外の道の駅や観光施設、交通事業者など、多様な主体と連携して、地元農産物を活かした事業や季節イベントを共同で展開することにより、来館動機を増やしリピーターの獲得を図るなど、施設内消費額の拡大に貢献します。

5 経営管理について

従来からの経理、人事労務等に加えて、今年度はコンセッションの公募を見据えて、次のとおり業務に取り組んでまいります。

■ 人材確保の面では、退職者に対して、欠員補充が追いつかず、人手不足が慢性化しています。こうした雇用環境から、業務の効率化を図るなど、限られた人員でも仕事の回る組織づくりに取り組みます。

併せて、コンセッション開始後の人材確保も視野に入れて、勤務労働条件の見直しにも着手いたします。

■ コンセッションでは、公園運営事業の遂行を目的とする会社（SPC）の設立に向けた準備を進めます。持続的な公園運営を見据えて、構成員企業が共通の目標に向かって一丸となる体制づくりを検討してまいります。

また、6月の募集要項公表を皮切りに、7月の第一次審査受付、11月の第二次審査受付、更には令和9年4月の運営準備事業開始までの契約手続きに遅滞なく対応できるよう、コンソーシアム構成員等との調整、審査資料等の作成に鋭意取り組んでまいります。

- 資金面では、SPCに係る資本金、業務運営費、投資等に対する負担割合や金額等について、各構成員との合意形成に向けた調整を行うとともに、その確保に道筋をつけてまいります。なお、計画更新修繕施設やその他収益事業への投資については、投資時期、回収期間、投下資本利益率等について詳細に検討し、投資計画を策定してまいります。

令和8年度 事業収支計画（案）

株式会社グリーンウインズさとやま

	科目	予算額（千円）	令和7年度実績	増減	備考
1	【 総 入 園 者 数 】	456,000	441,634	14,366	前年比103.3%
2	【 売 上 高 計 】	558,171	549,090	9,081	前年比101.7%（運営維持管理、指定管理以外 103.4%）
3	物販売上高	37,480	37,822	▲ 342	ランバス 21,277、自動販売機 8,500 ラ・フォーレ他 7,292 他
4	飲食売上高	61,679	56,778	4,901	中の茶屋 37,588、レストハウス 12,118、軽食きゅうくん 11,773 他
5	業務売上高	10,680	9,960	720	業務二課共通工事以外 1,000、ひばの里 9,680
6	その他売上高	76,672	77,201	▲ 529	本社A 2,300、自動販売機 3,420、臨時売店 57,527 イベント 10,000 ゆめさくら 2,429他
7	運営維持管理売上	256,659	256,777	▲ 118	
8	新規事業売上	45,185	42,061	3,124	駐車場 13,860、サイクル 3,846、オートビレッジ 18,150、ロードトレイン 9,289 他
9	出向派遣売上	43,132	40,583	2,549	植栽管理 31,900、施設課 8,090、北エリア 3,142
10	指定管理売上	16,873	16,964	▲ 91	
11	雑売上	1,738	2,872	▲ 1,134	
12	グランピング売上	8,073	8,072	1	
13	【 売 上 原 価 】	81,592	79,612	1,980	
14	【 売 上 総 利 益 】	476,579	469,478	7,101	
15	【 一 般 管 理 費 計 】	474,642	472,290	2,352	100.5%
16	役員報酬	15,240	15,240	0	
17	給料手当	71,400	69,360	2,040	単価増
18	給料旅費	1,810	1,781	29	
19	雑給	26,000	24,547	1,453	単価増及び売上増
20	賞与	11,200	11,012	188	2.0ヶ月
21	退職金	30	30	0	
22	法定福利費	15,000	14,994	6	
23	福利厚生費	1,600	1,568	32	
24	退職引当金繰入	62	737	▲ 675	
25	教育訓練費	100	58	42	
26	外注費	15,000	17,083	▲ 2,083	
27	荷造運賃発送費	60	57	3	
28	広告宣伝費	300	1,091	▲ 791	みのりの祭典及びイルミ花の広場分減
29	交際費	700	624	76	
30	会議費	150	107	43	
31	旅費交通費	400	309	91	
32	通信費	1,000	942	58	
33	消耗品費	5,000	4,782	218	
34	事務用品費	700	293	407	PC購入（5台）
35	修繕費	500	394	106	
36	水道光熱費	10,000	9,429	571	
37	施設管理費	70	64	6	
38	新聞図書費	60	59	1	
39	印刷製本	250	230	20	
40	諸会費	600	588	12	
41	支払手数料	5,500	5,021	479	グランピング食事代売上増分
42	燃料費	1,600	1,551	49	
43	車両費	2,000	1,653	347	ロードトレイン修理費増を見込む
44	リース料	400	419	▲ 19	
45	保守料	800	800	0	
46	保険料	5,800	6,428	▲ 628	R7 保険見直しに伴う保険料減額分
47	特退共保険料	4,160	4,855	▲ 695	
48	支払報酬	400	333	67	
49	寄付金	100	108	▲ 8	
50	研究開発費	0	0	0	
51	減価償却費	7,000	6,117	883	厨房備品更新に伴う増（見込み）
52	地代家賃	7,000	6,967	33	
53	賃借料	200	936	▲ 736	みのりの祭典分減
54	租税公課	650	630	20	
55	貸倒引当金繰入	300	323	▲ 23	
56	雑費	2,500	2,440	60	
57	役員退職慰労金	0	0	0	
58	役員退職慰労金引当金	1,900	1,300	600	
59	運営維持管理費	241,000	239,448	1,552	コンサルティング経費の増等
60	指定管理	16,100	17,582	▲ 1,482	
61	【 営 業 利 益 】	1,937	▲ 2,812	4,749	
62	【 営 業 外 損 益 】	600	8,295	▲ 7,695	保険の解約返戻金を見込まず
63	【 経 常 利 益 】	2,537	5,483	▲ 2,946	
64	【 特 別 損 益 】	854	1,328	▲ 474	退職引当金戻入の減
65	【 税 引 前 利 益 】	3,391	6,811	▲ 3,420	